

J A G A 設立20周年記念

ガラパゴススペシャルツアー

2026年9月18日(金)~9月28日(月)、11日間

ガラパゴス諸島

赤道

エクアドル共和国

南アメリカ

エクアドル共和国

ガラパゴス諸島

赤道

コロンビア

★キト(首都)

■グアヤキル

ペルー

ガラパゴス諸島

赤道

サンティアゴ島

サリバンベイ

バルトロメ島

ノースセイモア島

ラスバーチャス

バルトラ島空港

サンタクルス島

サウスブラザ島

サンタフェ島

ハイランド

プエルトアヨラ

トルトゥーガベイ



サンタクルス島プエルトアヨラの風景

JAGAスペシャルツアーは赤道直下のエクアドル共和国の首都キトからスタートします。世界で2番目の高地にある首都キトは赤道直下とは思えない清々しい気候に恵まれています。世界文化遺産第一号に登録されたキト旧市街の歴史地区と郊外にある赤道記念碑や赤道博物館の見学を楽しみます。

ガラパゴス諸島ではサンタクルス島にある 諸島内最大の町プエルトアヨラのホテルに5泊滞在します。滞在中に島のハイランドではスカレシアの高木樹に覆われた陥没孔ロスヘメロスや野生のゾウガメを見学します。サステナブル農法でコーヒー農園を営む農場の見学やガラパゴスの自然を科学的に守り続けているダーウィン研究所も見学します。日帰りボートツアーにも参加してノースセイモア島やサンタクルス島のラスバーチャス、バルトロメ島、サンティアゴ島のサリバンベイの見学も予定しています。

国立公園のビジターサイトではナチュラリストガイドの案内で見学します。島々で異なるガラパゴス特有の自然と固有の動物との出会いが楽しみな毎日です。

ホテルに滞在しながら過ごすプログラムなので、ガラパゴスの豊かな自然と現地社会の魅力を体感できるスペシャルツアーです。日本人コンダクターが同行しますので、安心してご参加いただけます。

JAGA設立20周年記念 ガラパゴススペシャルツアー11日間旅行計画日程案

No.	月日(曜)	時間	予定スケジュール	食事		
1	9/18(金)	07：30 09：35 07：35 11：05 16：48	成田空港に集合、結団式の後搭乗手続きを済ませます アエロメヒコ航空（AM）057便にてメキシコシティに向け出発します（所要時間13時間） メキシコシティに到着後メキシコの入国手続きを済ませキト行きに乗り換えます アエロメヒコ航空（AM）684便にてキトに向け出発します（所要時間4時間43分） キトに到着、入国手続きを済ませキト市内のホテルに向かいます 【宿泊：キト市内ホテル】	×	×	タ
2	9/19(土)	午前 昼 夕刻	ホテルにて朝食後キト観光にご案内します 世界遺産に登録されているキト市歴史地区を見学して昼食、見学後キト市の郊外にある赤道記念碑と赤道博物館を見学、終了後ホテルに到着 【宿泊：キト市内ホテル】	朝	昼	タ
3	9/20(日)	朝 08：37 11：09 昼 午後 夕刻	ホテルにて朝食後キト空港へ向かいます ラタム航空（LA）1413便にてガラパゴスへ向け出発（グアヤキル経由所要3時間32分） バルトラ島空港に到着後ガラパゴス入島手続きを済ませサンタクルス島へ向かいます サンタクルス島縦断道路で町へ向かう途中、ハイランドでスカレシアの高木樹で覆われた陥没孔ロスヘメロスを見学してから野生のゾウガメが見られる農場へ、昼食とゾウガメ見学をします 見学終了後サンタクルス島の人々が住む町、プエルトアヨラに向かいます ホテルに到着後チェックインを済ませ自由時間 【宿泊：サンタクルス島ホテル】	朝	昼	タ
4	9/21(月)	午前 午後	島のハイランド地区でサステイナブル農法でオーガニックガラパゴスコーヒーの栽培をしているタンタム農場を訪問、ガラパゴスコーヒーが出荷されるまでの行程を見学します 見学後ホテルに戻り自由時間 ダーウィン研究所を訪問して見学します 見学終了後昼食、ホテルに戻り自由時間を過ごします 【宿泊：サンタクルス島ホテル】	朝	昼	×
5	9/22(火)	午前 午後	諸島内でも数少ない、町から直接国立公園地区へアクセスできるトルトゥガベイへ向かいます。約2.5kmのトレイルをハイキングしながら、諸島屈指の白砂が約1.5kmにわたって続くブラバビーチを目指します。ビーチではウミグアナを見ることもできます ホテルに戻り、昼食後は自由時間を過ごします 【宿泊：サンタクルス島ホテル】	朝	昼	タ
6	9/23(水)	朝 午前 午後 夕刻	朝食後イタバカ海峡に向かい一日ボートツアーに参加します 上陸予定地のノースセイモア島（注1）ではリクイグアナやアオアシカツオドリ、グンカンドリなどを見学します、見学終了後船内で昼食 昼食後上陸予定地サンタクスル島のラスパーチャス（注1）で見学と海水浴を楽しみます ツアーの終了後町に戻りホテルに到着、到着後自由時間 【宿泊：サンタクルス島ホテル】	朝	昼	タ
7	9/24(木)	朝 午前 午後 夕刻	朝食後イタバカ海峡に向かい一日ボートツアーに参加します 上陸予定地のバルトロメ島（注1）では諸島内屈指の景勝地で有名なサミットトレイルを島の頂上まで往復したあとビーチで過ごしたりボートでペンギンを探します、見学終了後船内で昼食 昼食後上陸予定地のサンティアゴ島東海岸のサリバンベイ（注1）を見学します ツアー終了後町に戻りホテルに到着、到着後自由時間 【宿泊：サンタクルス島ホテル】	朝	昼	タ
8	9/25(金)	午前 14：10 17：15	朝食をホテルで済ませ出発まで自由行動、ホテルからバルトラ島空港に向かいます 空港に到着後搭乗手続きを済ませます ラタム航空（LA）1416便にてキトへ向け出発（直行便、所要2時間5分） キトに到着後空港ホテルに向かいます、チェックイン終了後一旦解散して自由時間を過ごします 【宿泊：キト空港】	朝	×	タ
9	9/26(土)	10：55 14：30 22：35	ホテルにて朝食後空港へ向かい、到着後帰国便の搭乗手続きを済ませます アエロメヒコ航空（AM）685にてメキシコシティに向け出発します（所要時間4時間35分） メキシコシティに到着後入国手続きを済ませ空港内で待機して帰国便に乗り換えます アエロメヒコ航空（AM）058便にて空路成田へ向け出発します（所要16時間55分） 【宿泊：機内】	×	×	
10	9/27(日)	00：20 01：35	飛行機はメキシコのプエルトバジャルタに途中寄港します 機内で待機して寄港地での乗客が乗り終わると再び出発します 【宿泊：機内】	×	×	
11	9/28(月)	06：30	成田空港に無事到着、帰国手続きを済ませて帰宅路につきます	×		

■航空会社凡例：AM=アエロメヒコ航空、LA=ラタム航空
 ■おことわり：・（注1）：予定している一日ボートツアーの上陸予定地はツアー会社が催行を決定してから国立公園局に申請をして許可が貰えれば実施されます。この日程の計画時にはまだ許可されていないので、今後上陸地が変更される場合があります。変更される場合は記載のないサウスプラザ島又はサンタフェ島になる場合がありますのでご承知置きください。
 ・食事欄には機内食の記載はありません。
 ・表記の日程、時間は本書作成日2026年6月22日の資料によりますので今後予告なく変更される場合もございます。

1 世界文化遺産:キト市歴史地区

エクアドルの首都キト市の歴史地区はユネスコに登録されている世界文化遺産第一号です。

キト市は16世紀にスペイン人によって征服され、植民地時代にスペインの影響を強く受けた建築様式の建物や宗教施設が数多く建設されました。

今でも歴史地区（旧市街）には数多くの歴史的建造物が残されていてラテンアメリカ屈指の美しい地区です。



2 赤道記念碑

エクアドル共和国の国名はスペイン語で“赤道”を意味していて、赤道が国土を通っている事に由来しています。世界で唯一エクアドル共和国は赤道を意味する名前を持つ国です。

1736年から1743年までの8年間にわたり、フランスとスペイン、フランスの測量隊がキト市の郊外で赤道の位置を計測した記録に基づいてこの地に赤道記念碑が建てられました。

地球上の赤道を陸地で北半球と南半球に足を置いて記念写真が撮れる場所は数少ないので多くの観光客が訪れる観光名所です。



3 インティニャン赤道博物館

インティニャン赤道博物館は赤道記念碑から200メートルほど離れた場所にあります。

インティニャン博物館の館長の父の意志「正確な赤道を示す」を継いでインティニャン博物館は作られました。

場内では赤道上で体験できる自然科学の実験（釘の上に立つタマゴ、貯めた水が栓を抜くと渦を巻かない実験、目をつぶってもまっすぐ歩ける実験など）が用意されていて一緒に楽しむことができます。

この博物館は、文化と民族の振興のための教育センターも兼ねていて、エクアドル・アマゾン民族の2つの伝統的な展示も見ることができます。



4 世界自然遺産:ガラパゴス諸島

ガラパゴス諸島は火山の噴火でおよそ300万年～500万年前にできた島々で、過去に大陸と陸続きになったことが一度もない太平洋で生まれた海洋島です。島々は海底からそそり立つ山の頂上が海上に顔を出しているのと同じなので砂浜の浅瀬が遠くまで広がる海岸が少ないのはこのような理由からです。

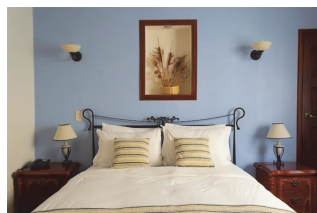
諸島はエクアドルの沿岸から西に約1,000Km離れた赤道上にある13の大きな島と6つのやや小さな島に加えて多くの小島から成り立っていて名前の付いている島が123島あります。

「生きた自然史博物館」ともいわれるガラパゴス諸島は、この地を訪れないと経験できない固有の動植物との出会いや、赤道直下の太平洋上の島々の美しい景観が訪れる人々に生涯忘れる事の無い感動を与えてくれます。諸島では4つの島に約3万人ほどの人が住む社会があり、自然と共存しています。スペシャルツアーではサンタクルス島とサンクリストバル島のホテルに泊まって、社会体験もしながらガラパゴスを楽しみます。



キトのホテル（Casa Aliso & Wyndham Quito Airport）

■キト市で滞在するカサ・アリソは、1936年に建てられた美しい邸宅を利用した10室だけの小規模なブティックホテルです。キトの人気エリア「ラ・フロレスタ地区」にあり、市内の喧騒から少し離れた静かで家庭的な雰囲気が特徴です。無料Wi-Fiも利用可能です。



■ガラパゴスからキトに戻って最後に宿泊するのが空港の隣にあるウィンダム・キト・エアポートホテルです。近代的なホテルで広くて清潔で快適な客室はとても人気があります。



サンタクルス島のホテル

スペシャルツアーでは、諸島のほぼ中央に位置するサンタクルス島のホテルに滞在します。サンタクルス島は4つの有人島のなかで最も人口が多く、2022年の統計では17,233人が暮らしています。この島の中で一番大きな町はプエルトアヨラでガラパゴス諸島最大の町です。ツアーではプエルトアヨラのホテルに5連泊します。

サンタクルス島の滞在予定ホテル：La Casa de Judy（ラカサデジュディ）



ホテル ラ カサデジュディは海岸沿いのメインストリートから4ブロック居住区に入った国立公園との境に近い場所にあります。客室は18室でアットホームなホテルです。フリーWi-Fi が利用できるほか、各部屋にはセフティ金庫、エアコン、薄型テレビ、専用バスルームが完備されています。プール、カフェテリア、ランドリーも設備されています。

おことわり：掲載する写真はすべてイメージです。

■ サンタクルス島(人口17,233人、2022年):プエルトアヨラ(Puerto Ayora)

諸島のほぼ中央に位置するサンタクルス島の南岸に面して諸島内最大の町、プエルトアヨラがあります。

海岸にそって西の港アカデミーベイから東のチャールズダーウィン研究所までがメインストリートでチャールズダーウィン通りと名付けられています。

メインストリートは綺麗に整備されていて、車道は一方通行で自転車専用道路も併設されているので想像以上の島の風景に驚かれる事でしょう。レストランや土産店、ホテルなどが並び、住宅地は海岸から北側の内陸部へと広がっています。メインストリートに面してカフェやアイスクリーム屋さんなどもあるので一休みして赤道に近いサンタクルス島の町の雰囲気にも旅の楽しみです。

町の中でもウミグアナが平然と道路にいたりアシカがベンチに寝ているのはガラパゴスでは日常の光景です。町の海岸にはアオアシカツオドリ、グンカンドリ、ペリカンなども良く見られます。

ガラパゴスに最後に出現した動物が人間なので、動物にとっては危害を与えない相手と認識しているからなのか、全く人に物怖じする事はありません。ガラパゴスの動物たちは人の社会とうまく共生しています。



チャールズダーウィン通り



チャールズダーウィン通り

■ サンタクルス島のハイランド

サンタクルス島を北のイタバカ桟橋から南のプエルトアヨラまで島を縦断するおよそ42kmの一本道がバルトラ通りです。島の中央部の標高が一番高いハイランドから南に下り始めるて最初の集落、サンタロサから道を外れて南面に向かうと牛が放牧されている牧場が広がります。この牧場は民間地でありながら野生のゾウガメが見られる唯一の場所で国立公園のルールを守りながら見学ができます。



ハイランドのゾウガメ

■ チャールズダーウィン研究所

海沿いのメインストリートが東で終わる場所がチャールズダーウィン研究所です。一棟の多層階ビルではなく、場内では各研究チームまたは組織の運営チームごとの建物に分かれています。ビジターセンターではプロジェクトの活動紹介や研究材料、標本などが展示されていて、お土産物を販売するキオスクもあります。

チャールズダーウィン財団(CDF)は、1959年にガラパゴスの保全に危機感を抱く欧米の科学者が中心となって国際NGOを設立して、この地をエクアドル政府から無償で借り受けてチャールズダーウィン研究所を設置しました。活動資金はすべて国際社会からの支援により、50年以上にわたり政府機関であるガラパゴス国立公園局と連携して、ガラパゴスの保全活動と調査研究活動を続けています。

場内では研究所のメインプロジェクトのひとつであるゾウガメの人工繁殖場の一部や世界中の動物園から返還されて飼育しているゾウガメを公開していて見学ができます。

研究所で生まれた子亀はゾウガメ復元計画の一環で5年から7年ほど研究所で飼育されてからそれぞれの故郷に戻されます。

ピンタ島の最後の一頭だったロンサムジョージは2012年に死んだのでガラパゴスゾウガメの一種が消滅しました。死後アメリカの自然史博物館で剥製に加工され2017年に里帰りして現在は特別展示室で展示されています。



ダーウィン研究所



ゾウガメ飼育場



ロンサムジョージ

■ ノースセイモア島(North Seymour)



空港のあるバルトラ島の北隣に位置するノースセイモア島は海底から隆起してできた小島です。島の南面にある波打ち際の岩場から上陸して、3mほど登ると平坦な地形をしています。

沿岸部にはベニイワガニ、ウミグアナ、アシカ、アカメカモメが見られるので上陸早々驚きと喜びの島です。内陸部のパロサントやウチワサボテンの樹林の中のトレイルを進むとオオグンカンドリとアメリカグンカンドリの2種が繁殖しているのと同時に見る事ができる珍しい場所です。人を恐れることのないアオアシカツオドリは人にはお構いなしで時にはトレイルの中でも見ることができます。手を伸ばせば届きそうな距離で見られる鳥との出会いには感動します。

1932年に隣のバルトラ島にはリクイグアナが繁殖しているのにこの島にはなぜいないのかと疑問を抱いた科学者によりバルトラ島から実験的に2回持ち込まれました。今では無事に繁殖して数を増やしています。元々リクイグアナとゾウガメが居ない島だったのでウチワサボテンが他の島のように樹木化せず背が低く、そのためかあとから入りこんだリクイグアナは餌が容易に食べられるからか太っています。



■ サンタクルス島ラスバーチャス(Las Bachas)

サンタクルス島の北岸にある白砂の美しいラスバーチャスには砂浜に靴を脱いでウエットランディングでボートから上陸します。

綺麗な浜辺はウミガメが産卵にやってくる場所で、卵を産み付けた巣はすり鉢状をしていて、卵が孵った後の窪みも残っていることがあります。見学の際には巣を踏まないようにしなければなりません。

海岸では海鳥の食事時には空から海へとダイビングしてエサの小魚を捕るアオアシカツオドリやペリカン、波打ち際の岩浜ではオオアサギやガラパゴスササゴイが漁をする姿が見られます。海鳥が羽を休める岩浜にはベニイワガニたちが見られます。

砂浜を進むとラグーンがあり、フラミンゴやホオジロオナガガモが羽を休めに来る事がります。繁殖地ではないので見る事が出来るのはタイミング次第です。

上陸した砂浜では海水浴やシュノーケリングも楽しめる場所です。



■ バルトロメ島(Bartolome)

バルトロメ島のサミットトレイルには靴を履いたままドライランディングで上陸します。高さが114mの頂上までのトレイルは木道と木の階段で整備されていて、頂上を目指して諸島屈指の景勝地を楽しみます。

バルトロメ島は噴火でできたまだ新しい島なので、トレイル途中の山肌には噴火して流れ出た溶岩が固まる途中に後からの小さな噴火でできた噴き出し孔や溶岩が流れ出てチューブ状に固まった様子が見られます。まるでジオラマを見るような光景が広がり、海底火山の噴火によって新しい島が生まれた瞬間に思いをはせずにはられません。

山肌は水気の無い乾ききった不毛の様子ですがパイロットプラントと呼ばれるヨウガンサボテンやティキリア、カマサイシなどの植物が数少ないですが根付いている様子を見ることができます。

最後の階段を登りつめて頂上を極めると隣のサンティアゴ島を始めとする島々が一望できる絶景が楽しめます。

バルトロメ島のシンボルになっているピナクルロックがそそり立つピナクルロックビーチには靴を脱いでボートからウエットランディングで上陸します。

ビーチは波が静かな穏やかな環境で海水浴やシュノーケリングが楽しめます。上陸後は素足で過ごせます。

ピナクルロックの周辺はガラパゴスペンギンの繁殖地になっているのでボートライディングでペンギンを探します。遊泳をしていると突然目の前にペンギンが現れたり好奇心が旺盛な子供のアシカが近づいてくる事もあります。



■ サンティアゴ島サリバンベイ(Sullivan Bay)

サンティアゴ島の東岸でバルトロメ島と海を隔てた向かい側に位置するのがサリバンベイです。

サンティアゴ島では19世紀の最後の25年間は火山活動が活発で1897年に最後の噴火があった際に流れ出た溶岩（パホイホイ溶岩）に覆われた黒い大地がサリバンベイです。

地質学的には非常に若い状態で、溶岩が流れながら風に吹かれて固まるまでの様子が想像できる地表面は自然の造形美としても美しい上に、地質学的に非常に興味深い場所です。

ウミグアナやガラパゴスペンギンの繁殖地でもあるこの場所は、シュノーケルが楽しめるので偶然に海から見学できたり、泳いでいると目の前に現れる事もあります。

夜行性なので昼間は溶岩のすき間で休んでいてなかなか見ることの少ないガラパゴスオットセイが見られることもあります。



見学できる予定の 主な動物たち



素晴らしい出会いと感動の日々
ガラパゴススペシャルツアーでお楽しみください

おことわり:掲載写真は代表的な一例でイメージです。見られる動物は場所と採餌や繁殖活動等のタイミング、季節や天候により見られない場合もあります。



①



②



③

ガラパゴスゾウガメ Giant Tortoise

ゾウガメは16種に分類されていますが5種はすでに絶滅しているので現存数は11種です。形態的に背甲が首の上が滑らかな①ドーム型、②首の上がめくれている鞍型、③背甲が平らな中間型(又はプレス型)に分けられています。なかなか野生の姿を見る事は出来ませんがサンタクルス島のハイランドで見学することができます。



リクイグアナ

Land Iguana

リクイグアナは3種が確認されていて、その体色からイエローイグアナとも呼ばれ、複数の島で繁殖しています。姿は怖そうに見えても、草食なので性格はおとなしい動物です。



ウミイグアナ

Marine Iguana

ガラパゴス諸島全域で見られるウミイグアナはトカゲ類で唯一海中に潜水して採食を行う固有種です。繁殖地により体形や体色が異なり、南の方が大きめで色も赤や緑色の斑紋が見られます。



①



②



③



④

グンカンドリは、ガラパゴス滞在中にほぼ確実に出会える鳥です。群島全体で見学可能で、特に他の海鳥たちが営巣しているエリアでよく見かけます。

空を見上げれば、滑空する姿がシルエットになって見えることでしょう。しかし、真の見どころは、陸上にあるグンカンドリの繁殖地での見学です。コロニーのある島々は、繁殖期には赤い喉袋を膨らませたオスのグンカンドリを見るのには最適です。グンカンドリは一年中ガラパゴス諸島に生息していますが、繁殖や営巣の時期は島ごとに異なります。ガラパゴス諸島には、2種類のグンカンドリが生息しています。



オオグンカンドリ Great Frigatebird

オオグンカンドリの体形はアメリカグンカンドリよりも少し小さいです。オス①は肩の羽が緑色がかった黒色で、メス②の目の周りのリングが赤色なのが特徴です。

アメリカグンカンドリ Magnificent Frigatebird

アメリカグンカンドリは固有亜種で、オス③は肩の羽が紫がかった虹色の光沢がありメス④は目の周りのリングが青色なのが特徴です。



ダーウィンフィンチ

Darwin's Finches

ダーウィンの“種の起源”に記され進化論の源になった存在感の大きな鳥です。異なる環境に適応しながら、くちばしが餌の大きさや硬さに適する進化をした違いから17種の固有種に分類されました。



アオアシカツオドリ

Blue-footed Booby

アオアシカツオドリはガラパゴス諸島の全域に生息しています。青い足が特徴で、オスの方が濃くてメスの色は薄いのです。繁殖期になるとオスの青色は更に鮮やかな色に変化します。



ガラパゴスペンギン

Galapagos Penguin

18種のペンギンの中で3番目に小さくてフンボルトペンギンの近縁種です。ペンギンは主に南半球の寒冷地で繁殖するのでガラパゴスは生息地の北限にあたります。主に海水温の冷たい西部に生息しています。



ガラパゴスアシカ

Galapagos Sea Lion

ガラパゴスアシカは北半球の温暖地域に棲むカリフォルニアアシカの近縁種とされています。生息数は約5万頭以上でガラパゴス全域の海岸でよく見られます。



ナスカカツオドリ
Nazca Booby
Sula granti

1999年にアオツラカツオドリから別種に認定された広範囲で見かけるカツオドリ類



ガラパゴスバト
Galapagos Dove
Zenaida galapagoensis

かつては諸島内にたくさん生息していたのに食用に乱獲されて激減したハト類の固有種



ガラパゴスノスリ
Galapagos Hawk
Buteo galapagoensis

猛禽類のガラパゴスノスリはガラパゴスに天敵不在で食物連鎖の頂点に立つ固有種



カッシュクペリカン
Brown Pelican
Pelecanus occidentalis californicus

諸島内の広範囲で繁殖してよく見かけるペリカン類の固有亜種



ガラパゴスササゴイ
Lava Heron
Butorides sundevalli

波打ち際で小魚を狙ってじっと立ち尽くす姿をよく見かけるサギ類の固有種



アカメカモメ
Swallow-tailed Gull
Creagrus furcatus

目の周りの赤入リングが特徴の広範囲でよく見かけるカモメ類の固有種



キイロアメリカムシクイ
Yellow Warbler
Setophaga petechia

オスは綺麗な黄色の体色で林の中でよく見かけるムシクイ類の固有亜種



ガラパゴスマネシツグミ
Galapagos Mockingbird
Mimus parvulus

ダーウィンが持ち帰った標本で彼が最初に注意を持った鳥で4種が確認されている固有種



シラガゴイ
Yellow-crowned Night-Heron
Nyctanassa violacea

波打ち際で小魚を狙ってじっと立ち尽くす姿をよく見かけるサギ類の固有亜種



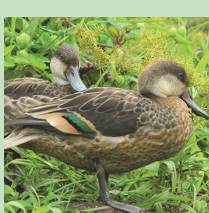
イワカモメ
Lava Gull
Leucophaeus fuliginosus

生息数がとても少なく絶滅危惧種に登録されているカモメ類の固有種



アメリカミヤコドリ
American Oystercatcher
Haematopus palliatus

波打ち際でよく見かけるミヤコドリは仲良くつがいでいる事が多い固有亜種



ホオジロオナガガモ
White-cheeked Pintail
Anas bahamensis

ラグーンでよく見かけるカモ類の固有亜種



ヨウガントカゲ
Lava Lizard
Microlophus spp

7亜種の全てが固有種に分類されていて島ごとに体色、体形が異なる

ガラパゴスの広範囲に繁殖しているヨウガントカゲは7種の内6種が1島1固有種（サンクリストバル①、エスピョラ②、フロレアナ③、ピンソン、マルチェーナ、ピンタ）に分類され、残りの1種は6島で確認されている小さいながらも貴重な存在である。

2026年9月18日出発 JAGA設立20周年記念 ガラパゴススペシャルツアーご利用案内

本書作成日：2026年5月30日

JAGA設立20周年記念ガラパゴススペシャルツアーは日本ガラパゴスの会（JAGA）が会員及び関係者の方から参加者を集めてツアーを実施致します。非会員の方はツアーの参加をもってツアーの出発日から一年間は会員として登らせて戴きます。スペシャルツアーのプログラムはガラパゴスの自然と社会を同時に体験できる特別なスケジュールで企画致しました。ツアーには現地に精通しているコンダクターが同行しますので、安心してご参加ください。実施に際しましては、ご参加者がツアーの催行基準に達してから手配を始めます。計画通りの予約が確保できてからお申し込みを正式に承りますので、お誘いあわせの上ご利用ください。

JAGA設立20周年記念ガラパゴススペシャルツアーの催行基準と参加費用の内訳、参加条件

ツアーの催行基準	・スペシャルツアーの最少催行人数は8名、募集定員は10名で実施致します ・ツアーのスケジュールはJAGAと参加者との総意で決定して実施する事を趣旨としてます 日程案の変更を希望される場合はお申し込みと同時に申し出ください
お申し込みの受け付け	お申し込み締め切りは6月19日(金)、但し募集定員に達した場合は受付を締め切ります
参加費用に含まれる内容 日程表に明示されている右欄の費用が含まれます おことわり：参加費用に含まれる費用は未使用の場合でも返金できません	・エクアドル往復国際線アエロメヒコ航空エコノミークラス航空代金（関係諸経費、燃油サーチャージ込み） ・送迎、観光時の車・ポート・ガイド代及びドライバー・クルー・ガイドのチップ ・宿泊費用（スタンダードルームを二人で使用する場合の一人分） ・食事代（朝食×7回、昼食×6回、夕食×7回、飲み物・機内食は含まれません） ・ガラパゴス往復エクアドル国内線エコノミークラス航空代金 ・ガラパゴス入島管理カード（現行\$20.00）申請登録費用 ・ガラパゴス国立公園入島料（現行\$200.00） ・ツアーコンダクター同行費用
費用に含まれない内容	・日程表に明示のない食事代、飲み物 ・パスポートを新規に申請する場合の経費 ・その他個人的費用
旅行参加条件	・有効期限が2027年3月末日までであるパスポートをお持ちの事が条件です

JAGA設立20周年記念ガラパゴススペシャルツアーの参加費用

キトの利用予定ホテル	・キト市ではカサアリソホテル（CASA ALISO HOTEL） ・キト空港ではウインダムキト空港ホテル（WYNDHAM QUITO AIRPORT）		
ガラパゴスの利用予定ホテル	・サンタクルス島ではホテルカサデジュディー（HOTEL CASA DE JUDY）		
おことわり	参加人数	ツイン使用の場合	シングル使用の場合
・このツアーは参加人数で共通経費を分担して参加費用を決定するので参加人数で費用が異なります ・JAGA現会員割引：参加費から5千円を割引きます	10名の場合	¥1,135,000	¥1,218,000
	8名～9名の場合	¥1,178,000	¥1,261,000

ご利用条件：このツアーのご利用条件はエクアドルの旅行約款に準じます

■ お申し込みについて	・仮予約：ご利用者の人数とお名前、ご連絡先をお知らせください ・正式予約：当社所定のお申込書をご提出いただきます
■ お申し込み金（お一人あたり）	正式予約完了後6月18日までにお内金として参加費用の50%をお支払い戴きます
■ 残金のお支払い	お内金を差し引いた残金は7月9日までに全額をお支払い戴きます

お取り消し料について

お取り消しの時期	取消料
6月19日以降7月9日までのお取り消しは	・参加費用の50%を申し受けます
7月10日以降出発当日までのお取り消しは	・参加費用の100%を申し受けます

このツアーの主催は	このツアーのお申し込み先・お取り扱い・お手配は
特定非営利活動法人 日本ガラパゴスの会（JAGA） 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-15-1403 電話：03-6868-3053 メール：info@j-galapagos.org	株式会社アートツアー 東京都都知事登録旅行業第3-3849号 〒110-0015 東京都台東区東上野3-15-14-305 電話：03-5826-8394 メール：arttour@galapagos.co.jp 担当：波形 namikata@galapagos.co.jp

JAGA設立20周年記念ガラパゴススペシャルツアー参加申込書

申込日: 2026 年 月 日

《お一人につき1枚ご記入下さい》複数でお申し込みの場合には本紙をコピーにてご利用下さい。

★おことわり: このツアーに利用する交通機関・宿泊機関では喫煙できませんので、予めご承知置きのほどお願い致します。

お申込書のご提出先:
パスポートのコピーもご提出をお願いします、写真を張り付ける場合は文字が読みとれる解像度をお願いします

FAXの場合の送付先: 03-5826-8393

メールの場合の送付先: namikata@galapagos.co.jp

申込書

□にレ印

JAGA設立20周年記念ガラパゴススペシャルツアーに次の通り申し込みます

宿泊は ☐ ツインルーム使用(二人一部屋)を希望、☐ シングルルーム使用(一人一部屋)を希望☐ 相部屋は〔 〕さんと同室を希望します☐ 相部屋を希望するので相部屋希望の他の参加者がいない場合は参加を辞退します☐ 相部屋希望でも他の相部屋希望者がいない場合はシングルルーム使用で参加します

◆キト往復の国際線について以下の欄にご記入ください(エコノミークラス以外のご利用は差額をお知らせします)

☐ 日程表に表記されているアエロメヒコ航空の ☐ エコノミークラスで手配を希望☐ 他の航空機の予約手配を希望します、希望は通信欄の通りですパスポートについて ☐ コピーを添付します ☐ これから申請取得するので取得後提出しますツアーの内容は ☐ 日程案で異存ありませんがJAGAの決定により変更が生じても承諾します☐ 可能であれば、下段の通信欄に記載する変更を希望します日本ガラパゴスの会(JAGA)の会員ですか ☐ 正会員です ☐ 賛助正会員です ☐ 非会員です

氏名	姓	名	性別	婚姻
	ふりがな		☐ 男 ☐ 女	☐ 既婚 ☐ 未婚 ☐ 他
	漢字		生年月日	昭和 年(西暦 19 年)
パスポートのローマ字名		月 日生まれ(満 才)		
自宅住所	〒	番	丁	ふりがな
	住所	都・道府・県		
	電話	☐ FAX兼	携帯電話	
メール: @				
緊急時の連絡者名	氏名:	続柄〔 〕	電話	

食物アレルギーのある方はご記入ください:

通信欄: